

3 地域を見守る支え合いのしくみづくり

住民がお互いに支え合う地域をつくるためには、住民一人ひとりが、福祉への理解と関心を高め、やさしさや思いやりを実際の行動につなげなければなりません。地域には、小さな子どもたち、子育て中の若い親、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人など、見守りや、ちょっとした支えを必要としている人がたくさんいます。こうした人たちを地域全体で支えるため、地域の中で活動する人たちの連携体制をつくり、地域の見守り、声かけ等の充実を図り、問題を早く発見し、予防、解決できる支え合いのしくみづくりを進めていきます。

【施策の方向性】

高齢者や障がいのある人を見守る体制づくり	ひとり暮らし高齢者等の見守り体制の確立
	サロン活動の推進
子どもを見守る体制づくり	登下校時のパトロール体制の確立
	地域住民による見守り活動の推進
	地域ぐるみの子育て支援



ふれあいいきいきサロン
七夕祭りの準備をする地域の人々と子どもたち

(1) 高齢者や障がいのある人を見守る体制づくり

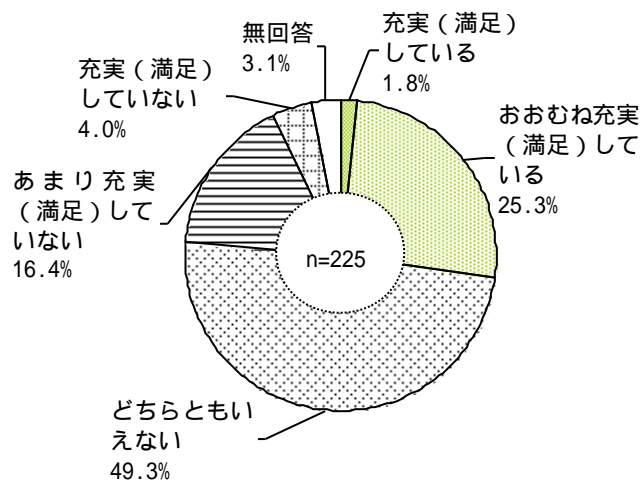
[現状と課題]

地域には、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人など、日常生活上の何らかの支援を必要としている人がいます。アンケートによると、特に北部地域では「ひとり暮らし高齢者の孤立化」が地域の重要課題として捉えられており、根尾地域では20%を超える高い率となっています(10頁の図表 - 1 参照)。地域部会においても見守りの体制づくりの必要性が指摘されていました。

また、「施設から地域へ」という流れの中、障がいのある人が地域で生活するためには、家族の支えや福祉サービスに加え、地域住民の見守りが必要不可欠なものとなってきています。

福祉関係者に対する福祉施策の充実度(満足度)に関する設問では、「独居・高齢者世帯の見守り活動」について、「充実(満足)している」と「おおむね充実(満足)している」の合計は27.1%、「あまり充実(満足)していない」と「充実(満足)していない」の合計は20.4%でした。

本巢市地域福祉に関する福祉関係者アンケートより



[これからの取り組み]

取り組みの方向	取り組みの内容	連携団体・組織等
ひとり暮らし高齢者等の見守り体制の確立	<p>▶自治会、民生委員児童委員、地域ボランティアによる地域見守り隊（仮称）の結成を促進していきます。ひとり暮らし高齢者や障がいのある人の自宅を訪ねての声かけ運動や冬場の玄関先の除雪作業などの活動が想定されます。</p> <p>▶ひとり暮らし高齢者等の安否確認と社会的な孤立を解消するため、老人クラブによる訪問活動を推進していきます。</p>	自治会、民生委員児童委員、ボランティア 老人クラブ
サロン活動の推進	▶ひとり暮らしの高齢者等を対象としたふれあいいきいきサロンが市内各地域で開催されています。より多くの地域で開催されるよう、ボランティアの立ち上げなど必要な支援を行っていきます。また、高齢者だけでなく、子ども、障がいのある人等が気軽に集える場づくりを推進していきます。	民生委員児童委員、ボランティア、社会福祉協議会

[事業等実施計画]

事業等	実施主体	時期
地域見守り隊の結成（試行）	自治会、民生委員児童委員、ボランティア	C
ふれあいいきいきサロンの拡充	民生委員児童委員、社会福祉協議会	A

* 「時期」 A：継続または20年度中に実施するもの
B：20年度以降の実施を目途に検討するもの
C：長期的な視野で検討するもの

(2) 子どもを見守る体制づくり

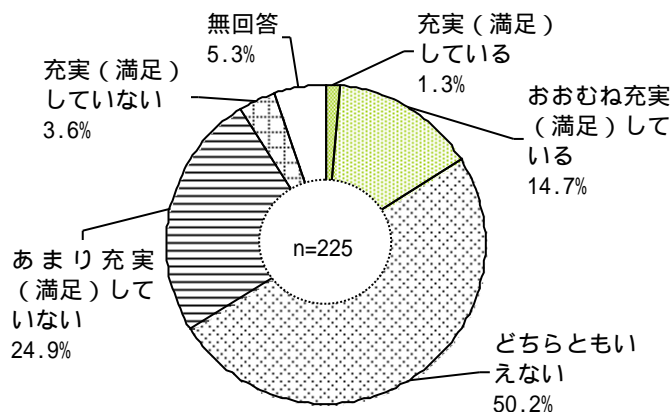
[現状と課題]

子どもを巻き込んだ事故や事件が後を絶ちません。現在、PTA、民生委員児童委員、老人クラブなど地域のさまざまな人々が、登下校時のパトロールなどに積極的に取り組んでおり、見守り体制は構築されつつあります。

子どもたちの外で遊ぶ声は、まちに彩りを与え、活気づかせます。子どもたちを地域で見守り育てることは、未来につながる活動といえます。今後は、支え合いの輪をさらに広げ、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを進める必要があります。

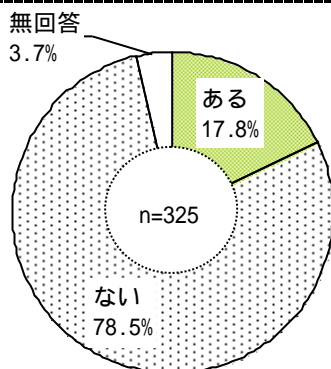
福祉関係者に対する福祉施策の充実度（満足度）に関する設問では、「地域住民による子育て支援活動」について、「充実（満足）している」と「おおむね充実（満足）している」の合計は16.0%、「あまり充実（満足）していない」と「充実（満足）していない」の合計は28.5%でした。

本巣市地域福祉に関する福祉関係者アンケートより



中学2年生に対する『これまでに近所の人に助けられたことや、近所の人のおかげだと思ったことはありますか』という設問では、「ある」が17.8%、「ない」が78.5%です。

本巣市地域福祉に関する市民アンケート～中学生調査より



[これからの取り組み]

取り組みの方向	取り組みの内容	連携団体・組織等
登下校時のパトロール体制の確立	<p>▶登下校時の事故や犯罪を防止するため、学校を中心とした地域の各種団体等の連携による通学パトロールを推進していきます。また、地域住民による子どもの見守りが常に行われるよう協力を呼びかけていきます。</p> <p>▶デイサービスの送迎車両やホームヘルパーの移動用車両による移動時の見守りパトロールを推進します。具体的には、車両用の統一ステッカーを作成し、各事業所に協力を要請していきます。</p>	<p>学校、PTA、民生委員児童委員、自治会、老人クラブ</p> <p>福祉事業者、市</p>
地域住民による見守り活動の推進	<p>▶地域の公園において子どもが安心して遊べるよう地域ボランティアによる遊び場パトロールを推進していきます。</p> <p>▶学校、PTA、自治会の協力により通園・通学路の危険箇所の点検を実施し、必要な安全対策を行います。</p> <p>▶子どもを巻き込んだ犯罪等を未然に防ぐため、「子ども110番の家」(緊急避難所)など、子どもが地域で危険に遭遇しても、駆け込める緊急避難所の充実とPRを図ります。</p>	<p>PTA、民生委員児童委員、自治会、老人クラブ</p> <p>学校、PTA、自治会、市</p> <p>市、警察、自治会</p>
地域ぐるみの子育て支援	<p>▶子どもに対する見守りはパトロールだけではありません。子ども自身が社会の規範やモラルを知り、守れるよう、声かけなどを通じて地域ぐるみの子育てを実践していきます。</p>	<p>住民</p>

[事業等実施計画]

事業等	実施主体	時期
福祉事業者による送迎・移動時の見守りパトロールの実施	福祉事業者	A
福祉事業者見守りパトロール用ステッカーの作成	市	A
遊び場パトロールの実施	P T A、民生委員児童委員	C
通学路の危険箇所点検	P T A、民生委員児童委員	C
「子ども110番の家」のP R	市	A

* 「時期」 A：継続または20年度中に実施するもの
 B：20年度以降の実施を目途に検討するもの
 C：長期的な視野で検討するもの



登下校時の見守り活動

4 地域で安心して暮らすための環境づくり

本市は、美しく豊かな自然に抱かれ、かつ、商業施設の進出などにより生活の利便性も確保され、自然的にも地理的にも大変恵まれた環境にあります。しかし、その反面、水害などの自然災害や、交通事故や犯罪などの危険にも晒されています。また、いつ起こるかわからない地震に対する備えも急務となっています。

「良いまち」の基本的な条件は、安心して安全に暮らせることであり、災害、事故、犯罪による被害を防ぐことは、住民の共通した願いです。住民一人ひとりの信頼関係とさまざまな団体の連携をベースに、個人の尊厳を尊重しながら、すべての人が安心して暮らせる体制づくりを進めます。

【施策の方向性】

災害に対処する地域の体制づくり	災害時要援護者の状況把握
	地域防災体制の確立
地域を犯罪や事故から守る体制づくり	自主防犯活動の推進
	地域で取り組む交通安全対策



地域の安全は自分たちで守る
「ひばり安全パトロール隊」発足

(1) 災害に対処する地域の体制づくり

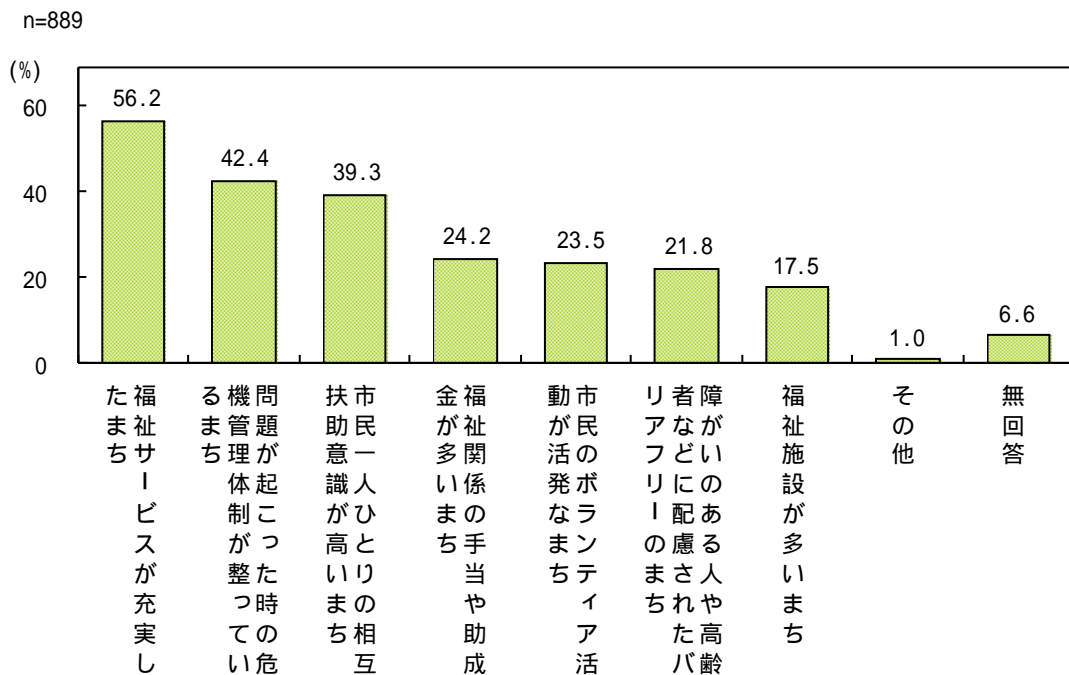
[現状と課題]

我が国は地震多発国であり、本市も過去に大きな地震による甚大な被害を被ったことがあります。また、近年の異常気象による予期せぬ集中豪雨の発生など、災害の防止や被害の軽減に向けた対策が重要な課題となっています。

最近、起こった大震災や豪雨災害の犠牲者をみると、そのほとんどが高齢者です。市民一人ひとりの防災意識の向上や自主防災組織の育成を図るとともに、高齢者や障がいのある人など災害時に援護を必要とする人に対する支援体制を地域で構築していく必要があります。

『福祉が充実しているまちとはどのようなまちだと思いますか』という設問では、「福祉サービスが充実したまち」に次いで、「(災害などの)問題が起こった時の危機管理体制が整っているまち」が40%を超える高い率となっています。

本巢市地域福祉に関する市民アンケート～住民一般調査より



[これからの取り組み]

取り組みの方向	取り組みの内容	連携団体・組織等
災害時要援護者の把握	<ul style="list-style-type: none"> ▶ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人が災害時に支援が受けられるよう、民生委員児童委員と自治会を中心に個人情報保護に留意しながら、避難時に支援を必要とする災害時要援護者の把握を行います。 ▶把握した災害時要援護者について同意方式による名簿、マップの作成を推進します。 	<p>市、社会福祉協議会、民生委員児童委員、自治会</p> <p>市、社会福祉協議会、民生委員児童委員、自治会</p>
地域防災体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ▶災害時要援護者について、自主防災組織、民生委員児童委員、住民など地域の援助者による支援体制を構築します。 ▶災害時に地域の自主防災組織が機能するよう、また、行政と自主防災組織等の連携が図れるよう、訓練の実施や情報提供の充実に努めます。 ▶各避難所への介護関係者の派遣など、避難生活におけるケア体制の確保に努めます。 ▶災害時に、福祉施設入居者や在宅の要援護者が安心して安全に生活できるよう福祉事業者間の連携を強化します。 ▶災害時に市内外の災害救援ボランティアが円滑に活動できるよう体制づくりを進めます。 	<p>市、社会福祉協議会、民生委員児童委員、自治会</p> <p>市、社会福祉協議会、民生委員児童委員、自治会</p> <p>市、福祉事業者</p> <p>福祉事業者</p> <p>社会福祉協議会、市</p>

[事業等実施計画]

事業等	実施主体	時期
災害時要援護者把握調査の実施	市	A
災害時要援護者名簿・マップの作成	市、自治会、民生委員児童委員	A
自主防災組織の確立	自治会	A
災害ボランティアセンターの確立	社会福祉協議会、市	B

* 「時期」 A：継続または20年度中に実施するもの
 B：20年度以降の実施を目途に検討するもの
 C：長期的な視野で検討するもの



自主防災の意識を高める
 総合防災訓練 模擬現地訓練

(2) 地域を犯罪や事故から守る体制づくり

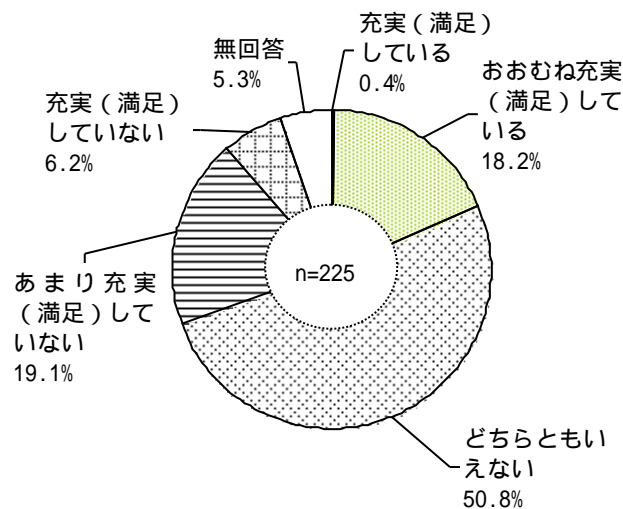
[現状と課題]

大型の商業施設の進出や宅地の造成などにより、市の南部地域は都市化が進んでいます。生活の利便性が向上した反面、地域の連帯意識の希薄化が進み、地域が本来持っている犯罪抑止機能が低下し、治安に大きな影響を及ぼしています。また、交通量が増加することで、交通事故の危険も増大しています。

こうした状況のなか、「自分たちのまちは自分たちで守る」という共通認識のもと、住民と行政が一体となって、地域を守る体制を整えていく必要があります。

福祉関係者に対する福祉施策の充実度（満足度）に関する設問では、「防災、防犯など生活安全に関する活動」について、「充実（満足）している」と「おおむね充実（満足）している」の合計は18.6%、「あまり充実（満足）していない」と「充実（満足）していない」の合計は25.3%でした。

本巢市地域福祉に関する福祉関係者アンケートより



[これからの取り組み]

取り組みの方向	取り組みの内容	連携団体・組織等
自主防犯活動の推進	▶高齢者や子どもが安心して暮らせる地域をめざし、家庭、自治会、学校、職場、行政が一体となった地域の防犯体制を強化していきます。	住民、自治会、学校、職場、市等
	▶子どもの登下校時のパトロールも含めて地域における自主防犯組織の育成を図ります。	住民、自治会、学校、職場、警察、市
	▶市内で発生した不審者情報等を、広報無線などを活用してできる限り多くの住民に伝わる方法を検討します。	市
	▶子どもの下校時の安全を確保するため、防犯灯の設置に対する支援など、犯罪を抑止する環境整備を進めます。	市
地域で取り組む交通安全対策	▶高齢者や子どもを対象とした交通安全教室の充実を図るとともに、交通安全協会や自治会をはじめ地域の団体等の連携により地域ぐるみの交通安全対策を推進します。	市、交通安全協会、自治会、老人クラブ、学校、社会福祉協議会
	▶高齢者や子どもの視点に立って、住民と行政が協働で地域の交通危険箇所のチェックし、必要な安全対策を行います。	市、交通安全協会、自治会

[事業等実施計画]

事業等	実施主体	時期
広報無線による不審者情報の提供	市	B
防犯灯の設置促進	市	A
交通危険箇所の点検	市	B

* 「時期」 A：継続または20年度中に実施するもの
 B：20年度以降の実施を目途に検討するもの
 C：長期的な視野で検討するもの